

令和 7 年度クイーンズランド州埼玉親善大使レポート

高鳥 和馬

はじめに

この度、埼玉県親善大使としてオーストラリア・クイーンズランド州に留学させていただきました高鳥和馬です。私は Yeppoon に約 2 週間滞在し、現地の高校に通い、ホストファミリーと共に過ごし、貴重な経験を得ました。このレポートでは、現地での学びや埼玉県親善大使としての活動について報告いたします。

学校生活

平日は基本的に学校に通い、現地の生徒たちとともに授業を受けました。学校は午前 9 時に始まり午後 3 時に終了し、その間に AM ブレイクと PM ブレイクが設けられていました。1 コマは 70 分で、1 日に 4 コマの授業がありました。休み時間には友人とバスケットボールをしたり、「オーストラリアン・ハンドボール（手を使って行う簡易的なテニスのような遊び）」を楽しみました。

学校では毎日異なるバディーと行動し、昼食も共に過ごしました。バディーの生徒たちは私にお菓子やスパゲティを分けてくれ、温かい交流を感じました。

授業の多くはパソコンを用いて行われ、手書きでノートを取ることは少ない印象でした。学べる教科は幅広く、酪農や電子機器の使い方なども含まれていました。オーストラリアの第二言語は日本語であり、日本語の授業が多く設けられていたことも驚きでした。特に、私たち6人が日本語のスラングについて英語で説明する授業では、大変苦勞したことを覚えています。

ホストファミリーとの生活

私のホストファミリーはファザーとマザーのご夫婦、1匹の犬、そしてブラジルからの留学生1人でした。マザーの口癖は“*No worries*（大丈夫だよ）”で、常に温かく支えてくださいました。ファザーはドライブが好きで、海や山に連れて行ってくれました。最初は緊張して会話がうまくできませんでした。が、ブラジルからの留学生が積極的に話しかけてくれたおかげで、次第に打ち解けることができました。

彼女は私より1週間早くこの家に滞在しており、英語がペラペラで、いつも明るく元気な人です。6か月間滞在する予定とのこと。放課後は一緒にビーチで貝殻を探したり、プールで遊んだりしました。家では映画を見たり、

UNO やカラオケを楽しんだりしました。最終日には感謝の気持ちを込めて手紙を書き、再会を約束しました。私は、英語力をさらに向上させて、より幅広い会話ができるようになりたいと強く思いました。



オーストラリアでの体験



私たちは CooberrPark に訪れ、コアラを抱っこしたりカンガルーに餌をあげたりしました。

エミューやウォンバットなどの珍しい動物にも出会えました。Mt Hay Thunder Eggs という山では鉱石探しをしました。卵みたいな形をしていてとてもきれいでした。



さらに、KoranaCrocodileFarm に訪れ、大きなワニを間近に見る機会がありました。その際ワニ肉を試食しました。鶏肉みたいでした。学校の授業の一環で VR 体験もさせていただきました。アボリジニの暮らしを学んだり、ボクシングやサッカーを体験しました。

埼玉県について紹介したこと

① Yeppoon 高校で日本の武道について

紹介しました。武道の精神性や礼儀など大切さなども伝えました。これらを紹介する中で、Yeppoon 高校の生徒が興味を持って耳を傾けてくれ



たことが印象に残っています。後半にはクイズなども行いました。

空手はオーストラリアでも人気のあるスポーツだそうです。

- ② インスタグラムを通して現地での生活について発信しました。オーストラリアの自然やホストファミリーとの生活などを投稿しました。

まとめ

私が現地に行って最も驚いたことは、人々のフレンドリーさでした。高校でただ歩いていただだけでも「Hello !! , how are you?」と声をかけられ、ハイタッチをしてくれました。目を合わせると笑顔を返してくれる人も多く、常に何事にも興味を持って接してくれる姿が印象的でした。また、物事に対する姿勢がとても前向きで、日々をいきいきと楽しんでいるように感じました。授業では先生と生徒の距離が近く、まるで友達のように自由に意見を交わしていました。特に、生徒一人ひとりが自信を持ち、自分の考えを発言することを恐れない姿勢に感銘を受けました。私はこの経験を通して、もっと前向きに、そして自信を持って物事に取り組むことの大切さを学びました。将来は社会のニーズに関心を持って国際的に活躍していきたいです。この留学は、私にとって大きな自信となり、将来に向けて挑戦する姿勢や視野を広げる貴重な経験になりました。

温かく迎えてくださったホストファミリーや学校の先生方、友達には心から感謝しています。また、このような貴重な機会を与えてくださった埼玉県やクイーンズランド州政府の方々をはじめとする関係者の皆様、そして親善大使としてともに留学期間を過ごした5人にも深く御礼申し上げます。皆さんのサポートがあったからこそ、私は安心して挑戦し、多くの学びを得ることができました。本当にありがとうございました。



↑ホストファミリーからのプレゼント